

# 中学生海外派遣報告

8月14日から21日までの8日間の日程で、第18回幸田町中学生海外派遣団（生徒20人、引率者4人）がオーストラリアのケアンズ市を訪問しました。

4泊のホームステイ、セントメアリーカソリックカレッジスクールへの体験入学を行い、オーストラリアの人々や現地の学校との交流を行いました。

感性豊かな中学生が、同世代の若者との交流や体験を通じて学んだことを報告します。

## 現地校で学んだこと

僕は現地校での体験入学を通して、オーストラリアの学校について多くのことが印象に残りました。先生方がスーツではなく私服で授業をされていることもあり、堅苦しい雰囲気はなく、みんなが気軽に授業を受けているというのが第一印象でした。また、授業を受ける生き生きとした表情もとても印象的でした。

授業では、日本に比べて生徒が意見を言う場がたくさん設けられていました。様々な場面で「自分の意見を自分の言葉で話す」ということが強く求められているようでした。日本で重要視されている『協調性』よりも『自主性』が重要視されているということを強く感じました。『協調性』『自主性』どちらも大切なことだと思えます。国によって歴史や文化が異なるように、重要視されることも違います。お互いの良さを認め、良いところを取り入れていけば、日本での僕たちの学校生活もより良いものになっていくと思えました。

現地の学校で、スクールバディと一緒に授業を受け、同じように学校生活を送ったことにより、貴重な体験をすることができたことと同時に、日本について改めて考えることができたと思います。自分の学んだことを一人でも多くの友達に伝えることで、お世話になった方々への感

## 第18回 幸田町中学生海外派遣団

### 幸田中学校

佐野 裕介 鋤柄 智久 山本 稜真 池田 圭織  
池田 友香 河野 真子 福澤 絵未 牧原 佑衣

### 南部中学校

加藤 圭悟 志賀 康平 竹本 悠華 本多 都  
八木 菜月

### 北部中学校

小山 武蔵 丹羽 正樹 野沢 征史 水野 元陽  
都築 祥子 藤田 尚子 山本 早織

### 引率者

塚水尾 顕治 小野良 琢也 磯部 妙子 近藤 正義



謝の気持ちを表していきたいと思えます。（幸田中学校 佐野 裕介）

心の交流

海外派遣のメンバーに選ばれたときから一番楽しみにしていたのは、ホームステイでした。わたしのホームステイ先は、ちょうど従姉妹の家族も来ていて、9人の大家族でした。

オーストラリア人は明るく陽気というイメージを持っていた私でしたが、13才・12才・10才の3姉妹と11才の従姉妹は、想像とは違いとても引っ込み思案な女の子たちでした。英語が上手くしゃべれない私は、どうしたらコミュニケーションがとれるのか、とまどい悩みました。



しかし、私が持って行ったヴァイオリンに興味をもってくれてからは、音楽を通してみんなと仲良くなることができました。国は違って、人間としての感性は同じということを実感しました。

ホストファミリーのおかげで、今まで遠い国だったオーストラリアが身近で大好きな国になりました。貴重な大変心に残る体験をさせていただき、ありがとうございました。

(南部中学校 本多 都)

オーストラリアの自然に絶句！

私たちは、初日と最終日に社会見学を行いました。初日は、オーストラリアにいった喜びをかみしめつつ、植物園に行きました。日本では絶対に見ることができない大きなヤシの木や、南国特有の熱帯雨林を見ることができました。

キュランダ列車での体験もすばらしいものでした。ケアンズ中心部からキュランダに続くこの列車は、100年前に敷設された歴史ある線路をゆっくり進みます。窓から見える水平線や、壮大なパロン滝にとっても感動しました。そして到着地点のキュランダ村での自由行動で、クロコダイルやカンガルーを間近に見ることができました。

最終日には、世界遺産であるグレートバリアリーフを見学しました。この日は、親切にしてくださいましたホストファミリーとのお別れで、最初のうちはとても暗いムードが漂っていました。しかし、船に乗った瞬間、揺れたり、波が体にかかっ

たりでみんなの顔がどんどん明るくなりました。1時間半の船旅でようやくグレートバリアリーフに着きました。青く澄みきつた海には、今まで青白い顔をしていた人も興奮して目を輝かせていました。ここでは海に潜って、色とりどりの魚を間近で見ることができました。青い海や魚を見て、この自然をいつまでも残す為には、私たち一人ひとりの努力が大事なのだとつくづく感じました。



見学を通して、現地の人々の優しさや、温かさを身をもって体感することができました。そして、オーストラリアの壮大な自然を未来まで残すために、現地の人だけじゃない全世界の人々が努力することが大事なのだということを勉強することができました。

(北部中学校 藤田 尚子)

心のお土産を分け合って



団 長 水 尾 顕 治  
た 水 尾 顕 治  
(北部中学校校長)

派遣生たちは、幸田町を代表する中学生だけあって、ホストファミリーとの4日間の生活にすぐに溶け込み、現地校での2日間の学校生活では、スクールパティ（現地校の級友）たちとともに授業を受け、コミュニケーションを満喫しました。また、現地校での日本紹介やホストファミリーとお別れパーティーでは、日本の歌や踊りを披露し大好評を博しました。この体験が派遣生徒たちにとっていかに貴重であったかを引率者として実感しています。

この体験を、各学校に心のお土産として持ち帰り、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。また、派遣生がこの体験を生かし、幸田町に貢献してくれることを期待しています。